

[概要]

本研究では、富山大学周辺地域「五福地区」を調査対象地域に設定し、大学周辺地域が学生に対して果たす生活面における役割を五福地区の変容と富山大学生の生活空間の変化をもとに明らかにすることを研究目的として調査を実施した。統計データや住宅地図を用いた五福地区の変容を整理するとともに、富山大学在学学生および卒業生への生活空間に関する聞き取り調査の結果から、1975年から学生数の増加、特に県外出身者割合の増加を背景に五福地区において水田地帯が埋め立てられ、アパートやマンションなどの集合住宅が大幅に増加したことで、五福地区が富山大学生の居住空間としての役割を果たすようになったと言える。また、商業施設割合の減少は個人経営店の減少が大きく影響しており、その原因として、利便の良いコンビニエンスストアなどのチェーン店の進出が挙げられ、飲食店についても同様のことが言える。富山大学卒業生の生活から推測される五福地区は、2000年以前のほうが現在と比較して利便が良かったと考えられるが、買い回り品の買い物や飲み会、アルバイトなどの活動をするには十分な地域ではない。そのため、市街地や郊外の大型商業施設などを利用する学生が多かったが、立地場所によっては自動車で移動することができない学生が買い物をする際には制約がある。現代におけるネット通販の普及は、それらを緩和する手段として役立っていると考えられる。つまり、五福地区は富山大学生にとっての居住空間であるとともに、大学生が生活において最低限必要とするものを提供する地域としての役割を果たしていると言える。

キーワード：大学周辺地域，富山大学生，生活空間，時代変化